

製品安全データシート

ベンジルサリシレート

作成 : 2023/1/31
改訂 :

● 項目1 化学品及び会社情報

化学品の名称 ベンジルサリシレート、サリチル酸ベンジル
会社名 Eternis Fine Chemicals Ltd.
住所 1004, Peninsula Towers, 10 th Floor, Peninsula Corporate Park, G.K. Marg, Lower Parel, Mumbai-400013, India

担当部署
担当者 Salomi Samuel
電話番号 +91-22-66513400
FAX番号
メールアドレス sales@eternis.com
regulatory@eternis.com
緊急連絡先番号 0120 015 230

販売代理店 サンケミカル株式会社
住所 東京都中央区日本橋小伝馬町2番4号 三報ビルディング
電話番号 03-3661-6681
FAX 03-3661-7055
メールアドレス yano@sun-chemical.co.jp
HP <http://www.sun-chemical.co.jp/>

推奨用途及び使用上の注意
香料原料

★ 項目2 危険有害性の要約

GHSの分類

Classification accordance with UN-GHS:

物理化学的危険性:

健康に対する有害性:

急性毒性(経口) 区分外(区分5) H303
眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性 2B H320
皮膚感作性 1B H317

環境に対する有害性:

水生環境有害性 長期(慢性) 3 H412

分類	内容
区分1~4	数字が小さい方が危険・有害性が高い。1(危険)>4(比較的安全)
区分に該当しない	数字で表示される区分より安全性が高い。
分類できない	分類に有効なデータが無く、有害なのか安全なのか、分からない。
分類対象外	この項目には無関係な製品。例えば、固体の製品では「自然発火性液体」の項目で、分類対象外になる。

● GHSのラベル要素

● 絵表示又はシンボル



● 注意喚起語

警告

● 危険有害性情報

H303 飲み込むと有害
H317 皮膚に感作性を引き起こすおそれがある
H320 眼に刺激を引き起こす
H401 水生生物に有害
H412 環境に長期にわたり有害

● 注意書き

【安全対策】

P260 ダスト/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
P264 取扱い後は汚染された皮膚をよく洗うこと。
P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
P273 環境への放出を避けること。
P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
P302+P352 皮膚に付着した場合: 多量の水と石けんで洗うこと。
P305+P351+P338 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P307+P311 暴露された場合: 医師の診断を受けること。
P333+P313 皮膚刺激又は発疹が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。
P337+P313 眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。
P362+P364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
P501 国の規則に従って内容物/容器を廃棄すること

項目3 組成及び成分情報	
化学物質・混合物の区別	工業純品
化学名又は一般名	サリチル酸ベンジル
慣用名・別名	安息香酸、2-ヒドロキシ-、フェニルメチルエステル、
化学物質を特定できる一般的な番号	
CAS番号	118-58-1
成分及び濃度又は濃度範囲(含有率)	100%
官報公示整理番号(化審法、安衛法)	3-3044
GHS分類に寄与する成分	無し
REACH登録番号	01-2119969442-31-0003

▲ 項目4 応急処置

直ちに医師の手当てを受けること。医療関係者にこの安全データシートを見せること。

吸入した場合	被災者を汚染源から移動させること。 被災者を空気の新鮮な場所に移して暖かく保ちながら呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気道を開いた状態に維持すること。襟、ネクタイまたはベルトのような体を締め付ける衣類を緩めること。 呼吸が困難な場合には適切な訓練を受けた人員が酸素投与を行って被災者を補助してもよい。 意識のない者は横向きの回復体位に寝かせて呼吸していることを確認すること。
皮膚に付着した場合	直ちに皮膚から物質を取り除くことが重要である。 何らかの感作症状が生じた場合には、それ以上の暴露防止を徹底すること。 石鹼と水または承認されている皮膚洗浄剤で汚染物を取り除くこと。 症状が重篤または洗った後も続く場合には医師の手当てを受けること。
眼に入った場合	直ちに多量の水で洗うこと。コンタクトレンズがあれば取り外し瞼を大きく広げること。 少なくとも10分間洗い続けること。
飲み込んだ場合	口を水で十分にすすぐこと。入れ歯があれば取り外すこと。 小さなコップ数杯分の水または牛乳を飲ませること。 嘔吐すると危険な場合があるので被災者が嘔吐しそうになったら止めること。 医療関係者の指示がない限り無理に吐かせてはならない。 嘔吐した場合には、嘔吐物が肺に侵入しないよう頭を低くしておかなければならない。 被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。 被災者を空気の新鮮な場所に移して暖かく保ちながら呼吸しやすい姿勢で休息させること。 意識のない者は横向きの回復体位に寝かせて呼吸していることを確認すること。 気道を開いた状態に維持すること。襟、ネクタイまたはベルトのような体を締め付ける衣類を緩めること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状
詳細な徴候及び症状は、項目11－有害性情報に記載する

応急処置を行う者は救助活動中は常に適切な保護具を着用しなければならない。
揮発性不純物がまだ被災者の周囲に存在すると思われる場合には、
応急処置を行う者は適切な呼吸マスクまたは自給式呼吸装置を着用しなければならない。
被災者から汚染された衣類を取り除く前に水でよく洗うか、手袋を着用すること。
マウスツーマウス式人工呼吸を行うことは応急処置を行う者にとって危険な場合がある。

応急処置をする者の保護 症候に基づいた処置を行うこと。敏感な個人に感作またはアレルギー性反応を引き起こすおそれがある。

医師に対する特別な注意事項 症候に基づいた処置を行うこと。敏感な個人に感作またはアレルギー性反応を引き起こすおそれがある。

毒劇物の場合、解毒剤 無し

項目5 火災時の措置

消火剤	耐アルコール泡、消火剤、二酸化炭素、粉末消火剤で消火すること。 周辺火災に適した消火剤を使用すること。
使ってはならない消火剤	火災を広げるので棒状水を消火剤として使用しないこと。
火災時の措置に関する特有の危険有害性	過剰な圧力増大が生じるので、容器は加熱すると激しく破裂または爆発することがある。
有害燃焼副産物	熱分解または燃焼した製品は次の物質を含むおそれがある：一酸化炭素、有機物ガス
特有の消火方法	火災ガスまたは蒸気の吸入を避けること。区域から避難すること。 水スプレーを使用して熱にさらされた容器を冷却すると共にリスクを伴わずに対処可能な それらの容器を火災区域から移動させること。 炎にさらされた容器は消火後も十分な時間冷却し続けること。 漏洩物または流出物に点火していない場合には、 水スプレーを使用して蒸気を分散させることにより漏洩を止めている者を保護すること。 水生環境への放出を防止すること。 封じ込めにより流去水を管理して下水道および水路に流入させないようにすること。 水質汚染のリスクが生じた場合には、管轄官庁に通報すること。

消火を行う者の特別な保護具及び予防措置

陽圧自給式呼吸器(SCBA)および適切な保護衣を着用すること。
消防士の衣類は化学物質に対して基本レベルの保護を提供する。

項目6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置

適切に訓練されていない場合または何らかの人的リスクを伴う場合にはいかなる活動も行ってはならない。
不要な人員および保護されていない人員を抽出物から遠ざけること。
この安全データシートの項目8に記載の防護衣を着用すること。
この安全データシートに記載されている安全取扱いに関する注意事項に従うこと。
流出物の取扱い後は十分洗うこと。
緊急時の汚染除去および廃棄の手順および訓練が適切であることを確認すること。
流出した物質に触れたりその中に踏み込んだりしないこと。皮膚および眼との接触を避ける。

環境に対する注意事項

水にわずかに溶ける。水性毒性の発生する可能性は低い。
しかしながら、大量または頻繁な流出は環境に対して危険有害性影響を及ぼすおそれがある。
不燃性、吸収性の材料に流出物を吸収させること。
排水管または水路あるいは地表への放出を防止すること。水生環境への放出を防止すること。
大規模流出：環境汚染(下水道、水路、土壌または大気)が発生した場合には関係官庁に報告すること。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

この安全データシートの項目8に記載の防護衣を着用すること。
直ちに流出物を片付けて廃棄物を安全に廃棄すること。風上から流出物に近づくこと。
小規模流出：流出物を不活性の、乾燥した物質に吸収させてから適切な廃棄物処理容器に入れること。
大規模流出：漏洩を止められない場合には、区域から避難すること。
流出した物質を排水処理場に洗い流すか、以下の通りに処理すること。
砂、土またはその他の不燃材料で流出物を封じ込めて吸収させること。
廃棄物をラベルの貼られた、密閉容器に入れること。
環境規則を遵守しながら、汚染された物体および区域を入念に浄化すること。
汚染された吸収剤は流出した物質と同じ危険有害性を示すおそれがある。
汚染された区域を多量の水で洗い流すこと。流出物の取扱い後は十分洗うこと。
環境に対して危険。排水路に流してはならない。
現地の廃棄物管理当局の規定に従い認可された廃棄物廃棄物投棄地点に廃棄物を廃棄すること。

二次災害の防止策

個人保護具については、項目8を参照。
健康危険有害性についての追加情報は、項目11を参照。
生態学的危険有害性についての追加情報は、項目12を参照。
廃棄物の廃棄処理については、項目13を参照。

▲ 項目7 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 (局所排気、全体換気)

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、
保護具を着用する。
「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。

安全取扱注意事項

製造業者から提供される推奨事項を読みこれに従うこと。
この安全データシートの項目8に記載の防護衣を着用すること。
飲食物、動物用飼料から離して保管する。
流出を最小限に抑えるためにすべての包装および容器を慎重に取り扱うこと。
使用しないときは容器を厳重に密閉しておくこと。ミストの形成を避けること。
水生環境への放出を防止すること。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
保護具を着用せずに破損した容器を取り扱わないこと。空の容器を再使用しないこと。
固体材料の再加熱:容器内の内容物が(部分的または完全に)凍結した場合、
容器全体を徐々に加熱し、すべての材料が溶けるまでは採取しないでください。
これにより、代表的なサンプルを採取することができます。
材料の温度が40° Cを超えるのを防止するため、
ドラムヒーターまたはホットルームを使ってこれを実施することをお勧めします。

接触回避

「10. 安定性及び反応性」を参照。

衛生対策

皮膚が汚染された場合は直ちに洗うこと。汚染された衣類を脱ぐこと。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
各作業シフトの終了後および飲食、喫煙およびトイレの使用前に洗うこと。
毎日作業場を出る前に作業服を交換すること。

保管

安全な保管条件

混触危険物質(項目10を参照)から遠ざけて保管すること。
現地の規則に従って保管すること。最初の容器中でのみ保管する。
容器を密封し、換気の良い場所に保管する。
凍結を防止するには、製品は25° C/77° F~40° C/104° Fで保管します。
容器を立てておくこと。容器が破損しないよう保護すること。
保管設備の周囲に防液堤を築いて流出時の水質汚染および土壌汚染を防止すること。
保管区域の床は漏れない、継ぎ目のない非吸収性のものでなければならない。
IBCは直射日光や高熱の場所を避けて保管してください。

近づけてはいけないもの

直射日光
火気

安全な保管保管包装材料

Suitable storage material - 316 Stainless Steel.
(適切なシール - パーフルオロエラストマーカルレッツ)。
適切なガasket - 316ステンレス鋼または石綿の使用されていないアラミド繊維合成物で
サポートされているグラファイト。
排水管および/または水路への放出を防止するために他と区別され防液堤で囲まれた区域に保管すること。

▲ 項目8 暴露防止及び保護措置

許容濃度等

日本産業衛生学会(2005年版)	未設定
ACGIH(2005年)	未設定

DNEL 推定無影響レベル	取扱者	吸引 経皮	長期	全体効果	3.17 mg/m ³
			長期	全体効果	0.9 mg/kg
	一般	吸引 経皮 経口	長期	全体効果	0.78 mg/m ³
			長期	全体効果	0.45 mg/kg
			長期	全体効果	0.45 mg/kg
			長期	全体効果	0.45 mg/kg

PNEC 予測無影響濃度	淡水	0.00103 mg/l
	海水	0.000103 mg/l
	断続的放出	0.0103 mg/l
	堆積物(淡水)	0.583 mg/kg
	堆積物(海水)	0.0583 mg/kg
	土壌	1.41 mg/kg
	標準状態	10 mg/l

設備対策 適切に換気すること。換気または他の管理手段の効果および/または呼吸用保護具の必要性を判定するために個人、職場環境または生物学的なモニタリングが必要になる場合がある。一次手段として行程囲壁、局所排気装置またはその他の設備対策を使用して労働者の暴露を最小限に抑えること。個人保護装置は設備対策措置で労働者暴露を適切に防止できない場合にのみ使用すること。防止手段の定期的な検査と保守が行われていることを確認すること。労働者が暴露を最小限に抑えるよう訓練されることを確認すること。

管理濃度 リスク評価により眼に接触する可能性が指摘された場合には適切な規格に適合した保護眼鏡を着用しなければならない。眼および顔面を適切に保護する個人用保護具を着用しなければならない。顔に密着する、化学物質飛沫ゴーグルまたは保護面を着用すること。吸入危険有害性がある場合には、代わりにフルフェース型呼吸マスクが必要になる場合がある。

保護具

呼吸用保護具

リスク評価により汚染物質を吸入する可能性が指摘された場合には承認された規格に適合した呼吸用保護具を着用すること。全ての呼吸用保護具が意図した使用に適していることを確認すること。呼吸マスクが顔面に密着することおよびフィルタが定期的に交換されていることを点検すること。意図した使用に適した吸収カートリッジおよび防塵機能付きフィルターを使用しなければならない。意図した使用に適した交換可能な吸収カートリッジを装備したフルフェース型呼吸用保護具を使用しなければならない。意図した使用に適した交換可能な吸収カートリッジを装備したハーフマスク式およびクォータマスク式の呼吸用保護具を使用しなければならない。

手の保護具

リスク評価により皮膚接触の可能性が指摘された場合には承認された規格に適合した耐薬品性の、不浸透性手袋を着用しなければならない。手袋の材料の破過時間に関する情報を提供することができる手袋供給業者/製造業者と協議して、最も適切な手袋を選択しなければならない。手を化学物質から保護するには、手袋はJIS T8116: 2005に適合していなければならない。手袋の製造業者が明記したデータを考慮し、使用中に手袋が保護性を維持しているかを確認して何らかの劣化が認められた場合には直ちに交換すること。頻りに交換することが推奨される。

眼の保護具

リスク評価により眼に接触する可能性が指摘された場合には適切な規格に適合した保護眼鏡を着用しなければならない。眼および顔面を適切に保護する個人用保護具を着用しなければならない。顔面に密着する、化学物質飛沫ゴーグルまたは保護面を着用すること。吸入危険有害性がある場合には、代わりにフルフェース型呼吸マスクが必要になる場合がある。

皮膚及び身体の保護具

リスク評価により皮膚汚染の可能性が示された場合には承認された規格に適合した適切な履物および追加的な保護衣を着用しなければならない。

特別な注意事項

使用しないときは容器を厳重に密閉しておくこと。換気装置または加工装置からの放出を検査してそれらが環境保護法令の要件に適合していることを確認しなければならない。場合によっては、放出を許容レベルまで低減させるためにはヒュームスクラパー、フィルタまたは加工装置に対する工学的変更が必要になる場合もある。

項目9 物理的及び化学的性質

Eternis Fine Chemicals Ltd. India として

物理的状態	液体
色	無色
臭い	穏やかな匂い
融点・凝固点	18°C
沸点又は初留点及び沸騰範囲	318°C
可燃性	データ無し
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	データ無し
引火点	176.5° C/349.7° F、試験方法: ペンスキーマルテンスクローズドカップ
自然発火点	データ無し
分解温度	データ無し
pH	6.20~7.20
動粘性率	データ無し
溶解度	データ無し
n-オクタノール/水分配係数(Log値)	log Kow: 4 OECD 117
蒸気圧	0.0104 Pa @ 25° C/77° F OECD 104。
密度及び/又は相対密度	1.181 @ 20° C/68° F OECD 109
相対ガス密度	データ無し
粒子特性	
その他のデータ	
粘度(粘性率)	17mm ² /s @20°C

● 項目10 安定性及び反応性

反応性	水にさらされると、対応する酸やアルコールに徐々に加水分解します。
化学的安定性	標準周囲温度および推奨条件で使用した場合は安定。規定された保管条件下では安定。
危険有害反応可能性	次の物質は製品と反応するおそれがある: 酸化剤。
避けるべき条件 (静電放電、衝撃、振動など)	長時間にわたる過剰な熱を避けること。 過剰な圧力増大が生じるので、容器は加熱すると激しく破裂または爆発することがある。 ピンク呈色を引き起こすため、鉄分との接触を回避してください。
混触危険物質	製品と反応して危険有害性状況を生じる可能性のある特定の物質または物質群は無い。
危険有害な分解生成物 その他	推奨事項に従って使用および保管した場合には分解しない。 熱分解または燃焼した製品は次の物質を含むおそれがある: 有害なガスまたは蒸気。

★ 項目11 有害情報

Eternis Fine Chemicals Ltd. India として

急性毒性 区分5	急性毒性一経口	2227mg/kg
	急性毒性一経皮	LD50 > 14150 mg/kg, ラット
	急性毒性一吸入	LD50 データ無し ラビット
皮膚腐食性/皮膚刺激性	刺激あり	ラビット
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	眼刺激あり	ラビット
呼吸器感作性	データ無し	
皮膚感作性	局所リンパ	感作性がある
生殖細胞変異原性	エームス試験:	陰性。
発がん性	利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。	
生殖毒性	利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。	
特定標的臓器毒性、単回曝露 (STOT) - 単回ばく露	単回曝露後の特定標的臓器毒性には分類されない。	
特定標的臓器毒性、反復曝露		

(STOT)－反復ばく露 反復暴露後の特定標的臓器毒性には分類されない。

誤嚥有害性 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。

項目12 環境毒性情報

Eternis Fine Chemicals Ltd. India として

生態毒性	水生環境有害性 長期 区分3
EC50(24H)(静的)	水生環境有害性 長期 区分3
EC50(48H)(静的)	大ミジンコ 1.21mg/L
EC50(72H)	ムレミカヅキモ 1.16mg/L
LC50(24H)(静的)	大ミジンコ 1.29mg/L
LC50(48H)(静的)	大ミジンコ 4.34mg/L
LC50(96H)(静的)	ゼブラフィッシュ 1.03mg/L
NOEC(72H)	Pseudokirchneriella Subcapitata ムレミカヅキモ 0.502mg/kg

残留性・分解性
93%: 28 日
OECD 301F。
物質は易生物分解性である。

生態蓄積性
log Kow: 4.31

土壤中の移動性
吸着/脱着 係数 土壌 Log Koc :3.75 @20°C OECD121

オゾン層への有害性
データ無し

他の有害影響
知られていない。

▲ 項目13 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい破棄、又はリサイクルに関する情報

残余廃棄物

廃棄物の生成を最小限に抑えるか可能であれば避けなければならない。
可能ならば製品を再使用または再利用すること。この物質および容器は安全な方法で廃棄する。
この製品、プロセス溶液、残渣および副産物の廃棄は常に環境保護と廃棄物処理に関する法令の要件および全ての地方管轄当局の要件を遵守して行わなければならない。
廃棄物を取り扱う際には、製品の取り扱いに適用される安全措置を考慮しなければならない。
十分に洗浄もしくは水洗いしていない空容器を取り扱う際には注意を払わなければならない。
空の容器または内張りには多少の製品残渣が付着していることがあるため危険有害性の可能性がある。

汚染容器及び包装

排水路に流してはならない。
余剰製品および再利用できない製品は認可を受けた廃棄物処理請負業者を介して廃棄すること。
廃棄物、残渣、空の容器、捨てられた作業着および汚染された浄化材料は指定された容器に集め、
内容物を示すラベルを貼らなければならない。焼却または埋め立ては再利用が不可能な場合にのみ検討すること。

項目14 輸送上の注意

国際規制	
国連番号	非該当
品名(国連輸送名)	非該当
国連分類 (輸送における危険有害性クラス)	非該当
容器等級	非該当
海洋汚染物質 (該当・非該当)	非該当
MARPOL73/78附属書II及び IBCコードによるばら積み輸送される液体物質 (該当・非該当)	非該当
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	国内規制に従う
国内規制がある場合の規制情報	
その他 応急措置指針番号	非該当

項目15 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

化管法	非該当
安衛法	通知・表示対象物質 非該当
毒劇法	非該当
火薬類取締法	非該当
高圧ガス保安法	該当なし
消防法	消防法 第2条危険物第4類第3石油類非水溶性液体(2,000L)
化審法	既存化学物質
船舶安全法	非該当
航空法	非該当
バーゼル法	非該当
外為法	キャッチオール規制
港則法	非該当

その他の適用される法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

項目16 その他の情報

安全上重要であるが、これまでの項目名に直接関係しない情報

引用文献

オリジナルMSDS Eternis Fine Chemicals UK、 Eternis Fine Chemicals
 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 NITE
 職場のあんぜんサイト
 2016年版 16716の化学商品

注意:

- ・危険有害性の評価はかならずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。
- ・この製品安全データシートは、当社の製品を適切にご使用いただくために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常の実用性を対象としたものではありません。
- ・本製品は、この製品安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取り扱ってください。
- ・ここに記載された内容は、現時点で入手できた情報やメーカー所有の知見によるものですが、これらのデータや評価は、いかなる保障もするものではありません。また法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。

赤字	必須情報	★	リスクアセスメント必須事項
青字	可能なら記載する情報	●	ラベルに記載する情報
黒字	無くても良い情報	▲	安衛法ラベルの注意書きの項目
色分け	2019年改正JIS Z7252/Z7253		(但し、ラベルに全て載せる必要はない)